

平成29年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成30年 4月 9日
研究・研修課題名	第2回腎臓病療養指導士講習会
研究・研修組織名(所属)	薬剤部
研究・研修責任者名(所属)	北郷 真史(薬剤部)
共同研究・研修実施者名(所属)	北郷 真史(薬剤部)

目的及び方法、成果の内容

① 目 的

慢性腎臓病(CKD)は、日本の成人人口の約13%(1330万人)が罹患しているといわれている疾患であり、そこから末期腎不全への進行、透析導入患者の増加が医療経済上大きな問題となっているほか、CKDは心血管疾患のリスクが高くなることなども知られている。CKDの進行を防ぐため、患者のCKDステージに応じた管理、指導(生活指導、栄養指導、薬物指導)を行っていくことが重要といえるが、CKDの管理といっても原疾患の治療から、生活習慣の改善、食事管理、血圧の管理、貧血(鉄)管理、電解質管理、体液量・アシドーシス・尿毒素管理、腎機能低下に伴う様々な併発症の予防管理など、さまざまな管理点が存在し、各職種が共通の知識をもって一人の患者に対応していく必要がある。

腎臓病療養指導士制度は日本腎臓学会を中心として新たに創設された薬剤師、看護師、栄養士を対象とした資格であり、職種横断的な慢性腎臓病療養指導に関する知識を有する者を育成することを目的とする。腎臓病療養指導士講習会は腎臓病療法指導士の資格取得に必須な研修会であるほか、研修を通し得られる知識は、慢性腎臓病患者に対し、他職種と共同して安全で適正な薬物治療を提供することに繋がると考えられたことから、本研修会に参加した。

② 方 法

下記日程、内容の研修会に参加し、研修を受講した。

第2回腎臓病療養指導士講習会。

日程：平成29年5月7日(日)10:00~16:00

会場：東京医科歯科大学 M&Dタワー 鈴木章夫記念講堂

対象：薬剤師、看護師、栄養士

受講内容：

1. 腎臓病療養指導士制度について
2. 慢性腎臓病CKD(Chronic Kidney Disease)とは何か
3. CKDの管理について
4. CKD患者の療養生活支援
5. CKD患者の療法選択の指導
6. CKDの薬学的管理と服薬指導
7. CKDのステージ別食事指導
8. CKDにおけるチーム医療について

③ 成 果

受講した内容について一部紹介する。

○CKD患者への栄養指導

CKDにおける食事療法は、従来ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、保存期慢性腎不全など、病態別の食事療法がおこなわれてきたが、現在は腎機能(GFR)のステージに合わせたステージ別食事指導に統一されている。概略すると、食塩はステージ共通の管理項目であり、ステージ3aからはタンパク質、リン、エネルギーが、ステージ4からはカリウム管理が食事療法に組み込まれる。

- ・食塩管理

腎機能の低下した状態では食塩の過剰摂取が細胞外液量の増加を招き、浮腫・心不全・肺水腫の原因となることが知られており、また、食塩制限により蛋白尿が減少することが知られている。CKD の食事療法基準では、3g 以上 6g 未満/日の減塩食が推奨されている。

- ・たんぱく管理

タンパク質が代謝される際、尿素窒素、尿酸などの窒素化合物が産生されるが、それらは腎臓からしか排泄されないため、腎臓への負荷軽減から腎代替療法導入延長、腎機能の安定などを目的とし、腎機能に応じて推奨される摂取量が設定されており、実際にタンパク質管理による効果も報告されている。

- ・エネルギー管理

たんぱく制限を行うことにより、たんぱく由来のカロリー摂取が減少し、体内のたんぱく異化が亢進（筋肉の分解など）し、窒素化合物が上昇する場合がある。それを防ぐため、たんぱく以外から適切な量のカロリーを摂取する必要がある。

栄養士は上記他、リン、カリウム管理についても踏まえながら、栄食事摂取状況の聞き取りや、身体計測、BUN/Crea 比、中性脂肪、アルブミン、血糖値といった臨床検査値から患者の栄養状態を把握し、患者の生活環境に合わせた適切な栄養指導を行う。

○CKD 患者の療養生活支援

CKD 療養においては、生活習慣など患者自身のセルフマネジメントが重要であるが、CKD のステージによっては患者の自覚症状がほとんどない場合もあり、受診継続ができなかったり、服薬コンプライアンスの不良に繋がる。そういったことを防ぐため、患者に合わせた CKD 療養に必要な知識と行動（生活習慣の改善）に関する知識提供、および患者が継続可能なセルフマネジメントについて考えていくことが重要である。

患者さんの食生活や生活スタイル、病識や現在のセルフマネジメントの状況を理解しておくことも非常に重要であり、またそういった薬剤以外の患者の治療背景を理解しておくことはチーム医療を行っていく上で非常に大切であり、患者個々の適切な薬剤指導にもつながると感じた。

上記講習を受講した後、2018 年 1 月 28 日に実施された第 1 回腎臓病療養指導士認定試験を受け、合格することができた。今後講習会で得られた知識および資格を活かし、慢性腎臓病患者に対する他職種と共同した治療に貢献していきたい。

<p>* 腎臓病療養指導士四団体合同認定委員会 腎臓病療養指導士 受領【2018 年 4 月 1 日】</p>
